

令和6年度 第2回
蓮田市地域包括ケア推進代表者会議録

【日時】令和7年2月12日（水）
19:00～21:10

【場所】蓮田市役所 303～305会議室

【出席状況】

・委員顧問

委員	座長	多ヶ谷 淑美	出席	委員	委員	高島 康子	出席
	座長代理	吉川 陽子	出席		委員	佐藤 晶喜	出席
	委員	本田 英明	出席		委員	内田 雅敏	出席
	委員	上田 朋範	出席		委員	茅野 俊幸	出席
	委員	吉田 浩二	出席		委員	大塚 武夫	出席
	委員	真辺 紀子	出席		委員	宮下 よね子	出席
	委員	稲橋 秀樹	出席	顧問	顧問	須田 秀利	出席
	委員	佐々木 祐子	出席		顧問	外山 哲也	出席
	委員	岩田 尚明	出席		顧問	小川 孔美	出席

・事務局

山口市長

健康福祉部 森上部長

在宅医療介護課 鈴木課長、小澤副主幹、大熊副主幹、五十嵐主任、田中主任

【傍聴者】 1名

1 開 会 鈴木課長 諸注意、資料確認
山口市長 あいさつ

2 議 事

（1）在宅医療介護連携推進事業

～急変時等課題共有にかかる情報交換会の開催について～

多ヶ谷座長により進行。

《資料2-1、2-2》に基づき、事務局より説明。

●質疑応答 質問なし

●意見交換

（委員からの意見）

- ・近隣自治体で「緊急時医療情報パス※」という取り組みがあり、参考になるのではないか。

※高齢者福祉施設等からの救急要請に際し、入所者の情報を事前に記載し明確にすることにより、救急隊や搬送先医療機関が迅速・適切に動ける情報源として活用することを目的に実施している（会議中に関連資料を配布）。

- ・多岐にわたる課題があると感じた。訪問する立場としては、予測できる内容の指示を事前につくってもらえると、本人や家族に説明できる機会がつかれると思う。家族が本人の近くにいないと状況把握ができないと、本人の意思を尊重することが難しいとの話もあったので、密に連携をとるための紙面のツールや共通媒体があるといい。
- ・「共有」は非常に大事だと思う。共有ができていないかたへどう対応していくか、日々感じている。

施設入所のかたは、急変時対応について家族が事前に考えていると感じる。施設に入

っていないかたのご家族に、「(急変時)急にそんなことを言われても考えられない」という回答が多いように感じる。

施設に入っていない在宅のかたや、情報共有が難しいかたに対して、積極的に情報共有をやっていかなければ、と思う。また、救急の適正利用についても説明する必要があると思う。

- ・ 地域のかたで、新聞が溜まっていたかたに声を掛けたら家の中で倒れていて、救急車を呼んだ事がある。対象者の緊急連絡先を民生委員が把握しており、連絡をしてから救急搬送になった。1人で暮らしているかたは、地域でもよく気をつけています。
- ・ 近隣自治体で「救急時のセット」を普及啓発しているところもある。消防がそのセットを確認すると、対象者の情報がわかる。
- ・ 蓮田市消防本部では「緊急時医療情報パス」にあたる取り組みとして、埼玉県東部地域で統一した「情報提供書」の活用を進めている。医療介護施設や介護事業所に向けて、情報提供書の使い方や活用のメリットを伝えるWEB説明会や巡回説明を行っている。また、11月には心肺停止の時に救急隊がおこなう処置についての「救急活動DVD」を作成し、情報提供書や医療情報パスを積極的に書いてもらう試みをしている。
- ・ また蓮田市では「あんしんセット」とともに「救急医療情報キット※」の活用支援もしている。これは、玄関の裏側に目印のシールが貼ってある場合、冷蔵庫に対象者の医療情報が記載されたキットがあるという仕組み。事業のPRが課題だと思う。

※救急医療情報キットの現物を紹介。

- ・ 急変時の施策をすすめるうえで、いくつかテーマを絞って施策化し、うまくいけばほかのテーマにも介入するという方法もあるのでは。たとえば、資料2-2アンケートで多数だった「意識消失」や「転倒による体動困難」についてまず対応を検討するのはどうか。
- ・ 埼玉県薬剤師会では、薬袋の裏に、#7119の案内を印刷している活動を強化している。

(2) 認知症総合支援事業

～認知症初期集中支援チーム検討委員会～

多ヶ谷座長により進行。

《資料3-1、3-2、3-3》に基づき、事務局より説明。

●質疑応答 質問なし

●意見交換

(委員からの意見)

- ・ 認知症のことで困っている家族やケアマネジャーから、本人が受診を拒否している時の対応などについて、多くの相談がある。認知症専門病院に相談し、同行訪問させてもらうと、声のかけ方などとても勉強になる。
- ・ 認知症の家族の話をきくイベントを企画した際、当事者の話もきかせていただいた。当事者やその家族から発信する力はとても大きく、認知症の正しい理解につながると感じた。そういった情報発信に取り組んでいくことが大事だと思う。
- ・ 昨年度に生活支援体制整備事業で、認知症のイベントを行った。サロンなどに出前講座を実施して、認知症について勉強することが大事だと思う。本人や家族が認知症を理解していないこともあるので、正しい知識を得られるイベントを、これからもやっていきたい。
- ・ 本日資料にある認知症ケアパスや認知症の出前講座があると、認知症の症状がよく理解できると思う。
- ・ 「認知症の疑いがあるときに、相談できる」と言うが、地域から「あの人は病気ではないか」と指摘することは言い出しづらいと思う。また、認知症のかたや認知症による問題行動があるかたがいた時に、認知症ケアパス9ページにあるような「接し方」

をどう伝えるかがポイントではないか。軽度な認知症の場合は地域で支えることができると思うが、問題行動がある場合、地域で見守ることが難しいとも感じる。

- ・ 日頃から関わっているかたは、何か変化があった時に、繋がりで見えていくことができると思う。核家族化などで、普段の様子が分からない場合、「変化の物差し」を合わせていくことから始めないといけない。認知症について、大多数の市民のかたは分からない。対象者に気付いた時に初めて「どこに相談したらいいのか」と思うのでは。自治体の公式 LINE で、行政が常に発信し続けると、対象者の家族が情報を目にして、いざという時に困らないで済むのだと思う。また、常に見ているかたがいる場合、「ちょっとした変化」に気付いて、家族や支援者に連絡できたりする。周囲に見ているかたがいない場合、常に情報を流しながら、参加してもらうような仕組みもつくっていったら。
- ・ 認知症初期集中支援推進事業は、報告のとおり件数的には少なくなっている。地域のかたの力がついてきたと解釈もでき、また、この状況は他自治体でも同様に起きている。日頃からケアマネジャー含め地域の方々が、認知症の理解を進めているのだと感じている。チームとして、家族支援、認知症になる前の支援、少し疑いがあるときの支援も含めて、本当に気軽に相談してもらえるような活動ができれば。

●顧問より助言

- ・ 認知症に関しては、誰でもなる可能性もあるため、社会の中で普遍的な知識や教養を高めないと、と感じています。困っているかたは多くて、信頼していた家族が認知症や物忘れで性格が激変し、非常に暴力的になるようなことも、誰もが遭遇するかもしれません。そういったことを、市民みんなにも理解してもらって、認知症に関する IQ レベルを上げて、蓮田市の人が認知症に対して広い視点を持てるようになればいいと思います。
- ・ 急変時にかかる件ですが、「何をもって急変と捉えるか」など、まだ整理しなくてはならないことがたくさんあると感じました。バイタルサインやフィジカルの変化をみても、その状態を周囲でどのように共有するかによって、「急変になる」のか「急変にならない」のか変わってしまうということが現実問題としてあります。「共有のシステム」をキーワードとして、引き続き取り組んでいく必要があると思いました。認知症の支援事業に関して、地域の底力がついてきたとのお話でしたが、確かにそう思います。ただ、チームに結び付く件数が人口と比較してかなり少ない。ニーズにマッチしているのか、常に確認しながら進めていく必要があると思いました。
- ・ 在宅医療介護連携推進の「急変」という言葉にこだわって意見交換しているのは素晴らしいと思います。資料 2-2 アンケート集計の「急変の判断に関すること」で、「人によって急変の感じ方がちがう…」という項目があります。他自治体の議論で出たのですが、急変の判断で現場が混乱している時でも、承諾している医師に電話し判断してもらうことで現場の混乱が収まった。そういった地域もあります。認知症については、すごく地域が育っているとよくわかりました。認知症ケアパスに掲載されている「見守りシール配布事業」すごくいい内容ですが、条件が 3 段階あり、こういった段階を踏めないかたが行方不明になっている可能性もあると思いました。そういったハードルをどう超えていくか、今後の課題と感じました。

(3) 事業報告

多ヶ谷座長により進行。

- ・ 在宅医療介護連携推進事業 あんしんセット、高齢者宅への電話連絡について
《資料 4》に基づき、事務局より説明。

- ・生活支援体制整備事業について

《資料 5》に基づき、事務局より説明。

- 質疑応答 質問なし

(委員からの意見)

- ・認知症の対応で、日々困ることがよくある。医療介護サービスを受けていない受診のみのかたで、医療機関からの提案を受け入れてもらえないことも多々あり、そういう場合に相談窓口があればいいと思った。
- ・地域の先生方と、認知症専門病院の先生方が連携を図れることが、一番地域住民のためになると思う。ぜひ、そういう連携がとれれば。

3 そ の 他

鈴木課長により進行。

- 会議録及びホームページへの公開について
- 令和 7 年度第 1 回会議の開催時期及び日程調整について

4 閉 会 吉川座長代理